

JMS NOTES



第58期 第2四半期 事業のご報告

2022年4月1日～2022年9月30日

(証券コード 7702)

目次

- 01 連結財務ハイライト
- 02 ごあいさつ
- 03 トピックス
- 05 JMS PREMIUM REPORT
次世代事業の創出
[myBeat ホームECG]事業

- 09 【特集】
育児休業取得推進の取り組み
- 11 セグメント情報
- 12 システム別売上高
- 13 財務諸表
- 14 会社情報

JMS

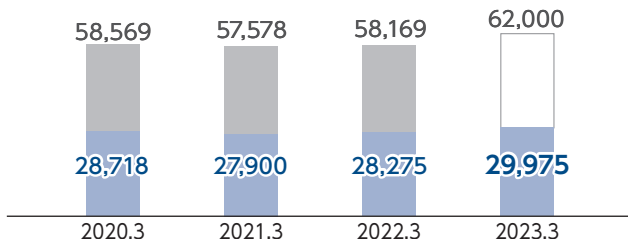
人と医療のあいだに…

連結財務ハイライト 第58期 第2四半期業績(累計)

売上高

299億75百万円

(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



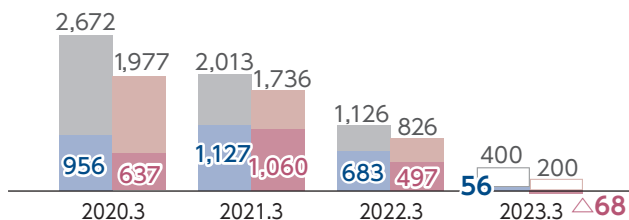
経常利益

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 △68百万円

56百万円

(百万円) ■ 経常利益 ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想

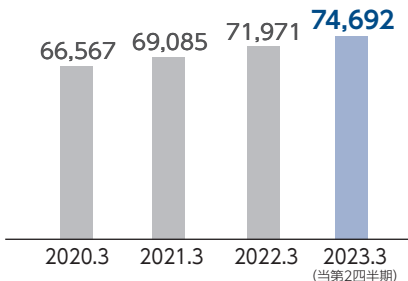
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



総資産

746億92百万円

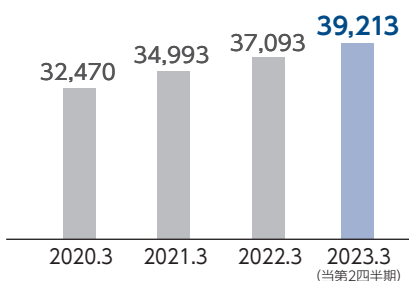
(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



純資産

392億13百万円

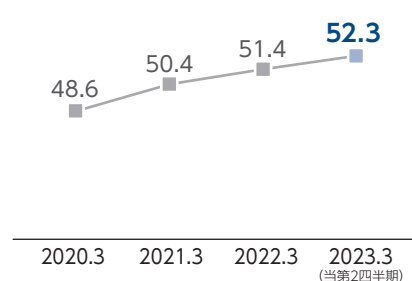
(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



自己資本比率

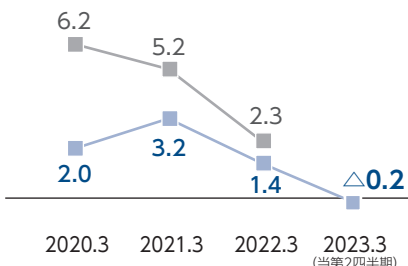
52.3%

(%) ■ 第2四半期 ■ 通期



自己資本四半期(当期)純利益率(ROE) △0.2%

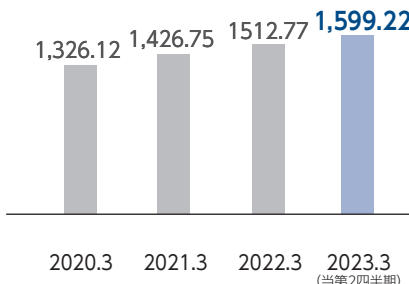
(%) ■ 第2四半期 ■ 通期



1株当たり純資産

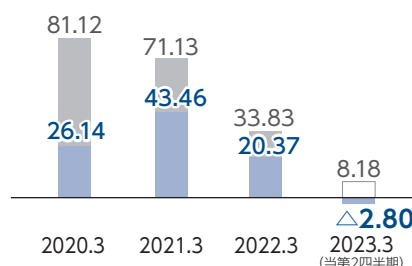
1,599円22銭

(円) ■ 第2四半期 ■ 通期



1株当たり四半期(当期)純利益 △2円80銭

(円) ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の拡大により影響を受けておられる皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ここに、当社第58期第2四半期（2022年4月1日から2022年9月30日まで）のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、日本国内においては、急性血液浄化事業に係る販売が増加したほか、薬剤調製・投与クローズドシステムや人工心肺用回路の販売が堅調に推移したものの、医療用手袋や栄養セットなどの販売が減少しました。海外においては、国・地域ごとに状況は異なるものの、新型コロナの影響からの回復の兆しがみられ、血液バッグの販売が増加したほか、AVF針（血液透析用針）の販売も好調に推移しました。

この結果、当第2四半期の売上高は、前年同四半期に比べ16億99百万円増加の299億75百万円（前年同四半期比6.0%増）となりました。

利益につきましては、増収効果はあるものの、原材料費や電力費、海上運賃の高騰による影響を受けたことに加え、労務費の増加や、段階的な販売活動の再開に伴い販売費が増加したことにより、営業損失は44百万円（前年同四半期は営業利益6億14百万円）となりました。また、為替差益や受取配当金の計上などにより、経常利益は56百万円（前年同四半期比91.8%減）となりました。これに投資有価証券売却益や法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は68百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益4億97百万円）となりました。

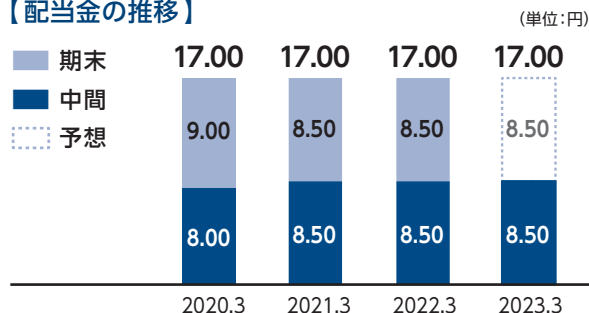
配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき8.5円とさせていただきます。

当社グループは、新型コロナの一日も早い収束につながるよう、今後も市場で求められる製品の供給体制を強化し、医療機器メーカーとして引き続き貢献してまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年12月

【配当金の推移】



代表取締役社長 奥窪 宏章

抗がん薬治療の新たなソリューションを創出 大研医器と業務提携に向けて基本合意

当社は9月1日、医療機器メーカーの大研医器株式会社と抗がん薬治療(化学療法)分野での業務提携に向けて基本合意しました。抗がん薬を外来通院で投与するほか、近年は自宅で持続注入する患者さんも増える中、在宅でも安心して抗がん薬治療が受けられる医療機器の開発を目指します。

大研医器は、超小型マイクロポンプを搭載した医薬品注入器「クーデックエイミー PCA」を開発し、革新的な医薬投与システムにより、術後疼痛や在宅緩和医療分野において売上を拡大しております。

今後は共同プロジェクトを発足させ、新たなソリューション提供に向けた具体的な検討と準備を進めていきます。

※クーデック、エイミーは大研医器株式会社の登録商標です。



大研医器の「クーデックエイミー PCA」

口腔機能評価の重要性を世界に広める 「JMS舌圧測定器」を欧州で販売開始

「JMS舌圧測定器」が欧州医療機器規則(EU-MDR^{*1})の認証を取得し、4月15日から欧州向けに販売を開始しました。同製品は、食べ物を飲み込むために必要な舌の力を測定することができる日本で唯一の医療機器です。

高齢化などに伴い飲み込む機能が低下すると、誤嚥性肺炎のリスクが高まるだけでなく、低栄養につながるため、口腔機能を維持することは高齢化社会におけるフレイル^{*2}予防として世界でも注目されています。今後は米国やアジアも含め、グローバル展開を進めてまいります。

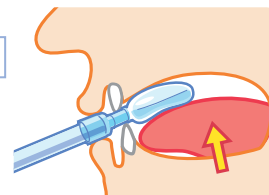
※1 欧州で販売される医療機器の安全性および有効性を高めるために、従来の規則であるEU-MDDを厳格にした制度。

※2 フレイル: 加齢により心身の活力が低下した状態。要介護状態に至る前段階に位置づけられています。



測定時の口の中の様子

バルーンを舌で潰して
上あごに押し付けます



働き方改革の推進 東京本社・東京営業所を移転

当社は、アフターコロナを見据えた働き方改革の一環として、6月27日に東京本社・東京営業所を港区芝浦に移転しました。また、サテライトオフィス(大田区平和島)を新設することで、双方を就業場所として選択でき、仕事の目的や社員の働き方の多様化に対応した就業スタイルを実現します。

● 新東京本社・東京営業所の住所

〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館 11階



東京本社・東京営業所が入居する
シーバンスN館



ソロブースやソファ席、フリーアドレスエリア
などさまざまなスペースを用意

物流のさらなる効率化 出雲工場の第7期棟を造設

当社はこのたび、国内の主力生産拠点である出雲工場(島根県)に第7期棟を造設し、8月1日より運用を開始しました。2015年に第6期棟を増築したことに伴い生産量が増え、今後も増産を計画していることから、物流のさらなる効率化を図るよう倉庫棟2,000㎡を新たに整備しました。当社の持続的な成長のため、これまで以上に生産効率を高めながら、製品の安定供給に努めてまいります。



「緑の伝言プロジェクト」の活動支援を続けています

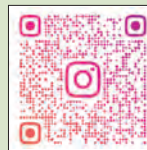
当社の本社がある広島市は、1945年8月6日の原爆で焦土と化し「被爆から75年間は草木も生えない」といわれました。しかし、今ではたくさんの緑が生い茂り、美しい景観を生み出しています。その中には、爆心地から約2kmで被爆し、再び芽吹いた樹木が約160本残っています。この「被爆樹木」を後世に引き継ぐための活動が「緑の伝言プロジェクト」です。

当社は2009年からこのプロジェクトに参加し、被爆樹木を守り伝える活動の一端を担っています。

緑の伝言



中国新聞U35



Green Greetings

from 160 A-Bombed Trees in Hiroshima

緑の伝言

もっと知ってください。[被爆樹木]のこと。「緑」の伝言サイト

www.green-greetings.com

緑の伝言

検索

「myBeat ホームECG」の事業を譲受 医療DXを推進し 次世代のビジネスモデルを創出

当社は、中期経営計画《GAIN-RG2023》で、重点施策の一つとして「次世代事業の創出」を掲げ、世界の医療・健康に革新をもたらす技術や製品の開発に積極的な投資をしています。直近では、2022年8月に携帯型心電計「myBeat ホームECG」の事業を譲り受けました。先進的な心電計で、心臓病の早期発見、早期治療に役立つ製品として期待されています。

今回は、サージカル&セラピー ビジネスユニット(以下BU)血液浄化部の山下哲以部長に、現在の取り組みや今後の展望をインタビューしました。



サージカル&セラピー BU
血液浄化部 部長

山下 哲以

Q

「myBeat ホームECG」は
どのような製品でしょうか。

伝送機能を備えた小型の心電計

管理医療機器(クラスII)の医療機器認証を取得した、小型・軽量の携帯型心電計です。本体の両側にある電極に手を軽く添えるだけで、いつでもどこでも気軽に心電図を測定できます。測定時間は約40秒と短く、ベッドに横になったり、胸や手首などに電極を貼り付けたりといった測定前準備も不要です。測定結果は、心電図波形として測定完了と同時にスマートフォンやタブレットのアプリに即時表示されるほか、伝送機能を兼ね備えているので、クラウドを経由してかかりつけ医にリアルタイムでデータが自動送信されます。

さまざまな小型化された心電計が世に出回っている中、

「myBeat ホームECG」の最大の特長は、“医療機器”であること、つまり、医師が測定結果から不整脈などを診断できるということです。患者さんや医療従事者の負担を軽減するだけでなく、診断の指標とするための情報や機能が搭載されています。



※myBeatはユニオンツール株式会社の登録商標です。

myBeat ホームECGの特徴

- 小型&軽量
- 特殊アルゴリズムや機能が豊富
- 特許を数多く取得
- スマートフォンやタブレットに心電図波形を表示



Q

事業譲受に至った経緯を教えてください。

高い性能や操作性の良さなどが魅力

開発会社は、ユニオンツール株式会社(東京都品川区)です。当社は以前から、同社のウェアラブル心拍センサーを取り扱っていました。同製品は非医療機器でありながら、Paf(発作性心房細動)の検知機能や自律神経(LF/HF)測定機能、睡眠時無呼吸症候群(SAS)による日中の居眠り検知機能などの特殊なアルゴリズムを搭載。特許も多く取得し、権威ある論文にも多数掲載されていることから、当社では医療分野にも十分有用性があると考えていました。

ユニオンツール社は同じセンサーを用いて「myBeat ホームECG」を開発。当社では、2020年10月から医療機関向けに販売を開始しました。シンプルな操作性や通信システム、アプリケーションとの連携など、医療現場の

ニーズを追求した同製品は、他社類似製品との差別化も十分に図れると確信。2022年8月付けで当該事業を譲り受け、さらなる利便性を追求し、改良を加えて当社製品との連携を強化しました。

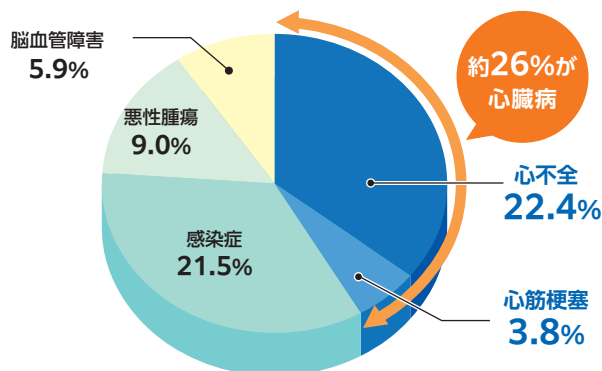
Q

どのような領域での活用を
考えていますか。

透析患者さんの心臓病リスク低減

透析患者さんの体調管理に役立てたいと思っています。心臓と腎臓は非常に密接な関係にあります。「心腎連関」という概念があるように、心臓病と腎臓病はお互いに関連して進行するケースが散見されます。日本透析医学会の直近の「わが国の慢性透析療法の現況(2020年)」によると、透析患者さんの死亡原因の第1位は「心不全」で全体の22.4%。「心筋梗塞」も3.8%を占め、透析患者さん全体の約26%が心臓病で亡くなっています。

慢性維持透析患者の死亡原因



出所:日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況(2020年12月31日現在)/慢性透析患者 死亡原因割合の推移, 1983-2020」のデータをもとにJMS作成。

「心腎連関」について、もう少し詳しく説明します。腎臓は、体に不要な老廃物や取り過ぎた多くの物質を血液の中からろ過し、尿として体外に排泄する働きを担っている器官です。腎機能が低下すると、体内をめぐる血液の量が増加して、心臓に余分な負担がかかってしまいます。また、慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常は、血管が狭くなったり硬くなったりする動脈硬化を進行させ、心臓血管疾患（急性心筋梗塞や狭心症、不整脈など）を引き起こします。

このように、透析患者さんは心臓病のリスクが高いため初期症状を少しでも早く検知して、早めに治療することが重要です。そのためには心電図などの検査を定期的に行うこと。簡単に心電図を計測できる「myBeat ホームECG」は、心臓病リスクの早期発見に役立つと考えています。

Q

具体的にはどのような運用方法がありますか。

透析療法の前後に定期測定

血液透析クリニックでの運用を考えています。透析患者さんは、透析療法の前後に体重や血圧を測定します。その際に「myBeat ホームECG」で心電図も測定。所要時間は約40秒と短く、患者さんが電極に手を軽く添えるだけで自動測定するので、医療従事者の手間も省くことができ、透析処置の流れを妨げる心配はありません。一般的に透析処置は週3回行われますので、定期的に測定することで、心臓の異常を発見しやすくなります。



Q

透析情報システム「ERGOTRI(エルゴトライ)」との連携について教えてください。

トータル診療が可能に

当社が開発した「ERGOTRI」は、透析患者さんの医療情報や透析業務に関わる情報を一元管理できるシステムです。電子カルテと連携させることで、患者さんに合わせた処方方を簡単に効率よく設定でき、医療従事者の業務をサポートします。

「myBeat ホームECG」と連携させることで、透析前に測定したパラメータ(平均心拍数、QRS幅、PQ間隔、QTc、平均STレベルなど)を「ERGOTRI」のデータベースに蓄積。それをグラフ化することで、医師の所見を様々な検査結果のデータと関連付けながら確認することができます。

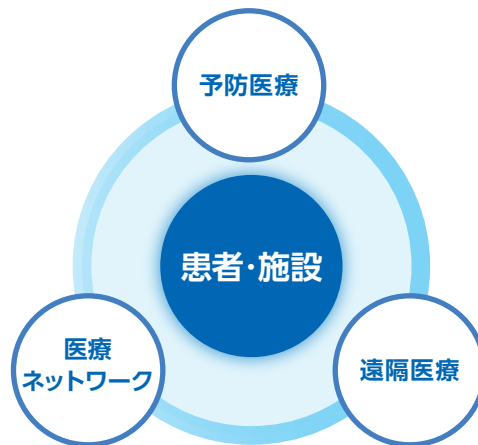
Q

医療のDX(デジタルトランスフォーメーション)需要が高まっています。

新たなビジネスモデルを構築

デジタル技術の発展やITの進化によって「DX」という言葉が一般的になり、ビジネスや生活の場でも日常的に使われるようになってきました。医療現場も例外ではありません。

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、オンライン診療の規制緩和が進みました。2020年4月に厚生労働省は時間的・特例的措置として「初診は対面診療」とする原則を撤廃。2022年4月にはオンライン診療の診療報酬が引き上げられ、本格的に解禁されました。



当社でも、IT技術を活用した医療機器の開発と運用を進め、遠隔医療の実現を目指します。そして、IoT医療機器のデータ活用によって疾病を早期発見する予防医療の実現、災害発生時でも患者さんのデータにアクセスできる医療ネットワークの構築の2分野を加えた医療DXを推進。QOLの一層の向上を支える企業として、「医療への貢献」と「新たなビジネスモデルの構築」に向けて全力を尽くしたいと考えています。



特集 育児休業取得推進の取り組み インタビュー

男性育休が“当たり前”の組織風土を醸成し 女性の就業継続促進や人材確保につなげる

男性育児休業(育休)の取得促進を目指す「改正育児・介護休業法」が、2022年4月から段階的に施行されています。当社においても、男性育休の取得率30%以上を目標に掲げ、育休を取得しやすい環境づくりを強力に進めています。今回は人事部の梅田政司課長に、当社の男性育休取得に関する取り組みについて話を聞きました。



人事部 勤労課 課長
梅田 政司

◆ 法改正で男性も育児を担う社会へ

当社では2021年4月、女性活躍推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定しました。この計画は、女性が職業生活において活躍でき、さらに従業員がワークライフバランスを推進できるような雇用環境の整備を目指すものです。その中で掲げている目標の一つが、男性育休の取得率向上。具体的には「男性の育児休業取得率を30%以上にし、今しかない貴重な時間を家族で過ごしてもらい、仕事と家庭の両立を応援する」と定めています。

社会全体を見ると、2022年は労働分野の制度改正により、育休取得の環境整備が進みました。4月から「改正育児・介護休業法」が一部施行され、10月には新たに「産後パパ育休制度(出生時育児休業)*」もスタート。これに合わせて当社でも、「育児で仕事を休むのは当たり前のこと」という組織風土の定着を目指した取り組みを進めています。

*子どもが生まれてから8週間のうちに、計4週間の休みを2回に分けて取得できる制度。併せて既存の育休制度も2回まで分割して取得することが可能となり、子どもが1歳になるまでに育休を4分割して取得できる。

◆ 制度と意識の改革で取得率95.7%

具体的な取り組みは、まず現場の声を聞き、状況や要望、課題を収集・分析することから始めました。各工場を皮切りに、本社・営業所の男性社員を対象にしたアンケートを実施。その結果、「ぜひ取得したい」「できれば取得したい」という声が、年代を問わず約7割を占めました。しかし、当社の取得率は2020年度で5.1%、2021年度は11.8%と上昇したものの、理想と現実には依然として大きな開きがありました。

アンケートによると、育休取得を見送る主な理由の一つが「収入を減らしたくない」でした。そのため、2022年4月から「妊娠報告書」の運用を開始し、対象者を早めにキャッチすることで、社会保険や給付金などの収入補填制度を丁寧に説明しています。そして、「自分にしかできない仕事があるから、休むと迷惑をかける」という不安には、余裕を持った業務調整により、担当業務の棚卸しや同僚への引き継ぎを実施することで、業務の属人化を解消しています。「職場が育休を取得しづらい雰囲気」という声に対しては、上司が率先して制度の利用を働き掛け、取得の意識付けを図っています。

また、社内イントラネットを活用して、勤労課の担当者が制度

解説の動画を配信。育休経験者の座談会なども企画し、全社的に取得しやすい職場風土の醸成に取り組んでいます。

こういった取り組みの結果、2022年4月から9月までの取得率は95.7%*と、100%に近いところまで大幅に上昇しました。

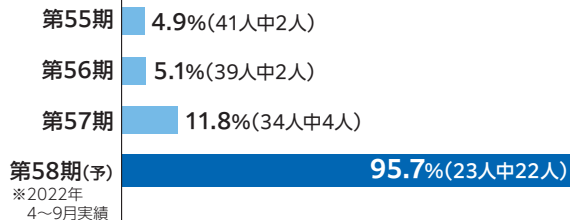
*2021年4月以降に子どもが産まれて2022年4月以降に育休を取得した人数(22人)÷2022年4月以降に子どもが産まれた人数(23人)

◆ 変化に強い組織づくり

男性の育児参画は「仕事も家庭も大切にしたい」という男性の希望を叶えるだけでなく、夫婦で育児や家事の負担を分かち合うことで、女性の負担が減り、就業継続の促進にもつながります。そして、子育てという貴重な経験を共有することで、将来にわたり家族や夫婦の絆が深まるとともに、これまでも増して仕事に対するモチベーションも上がるでしょう。

一方、会社側からすると、社員の育休取得を機に「特定の担当者しか分からない」「プロセスがあいまい」な業務を「見える化」でき、業務内容や組織体制を見直すきっかけにもなると考えて

当社の男性社員の育休取得率推移



います。育休に限らず、社員が病気やケガで入院した時や災害などがあっても通常と変わりなく運営できる、変化に強い組織がつかれます。

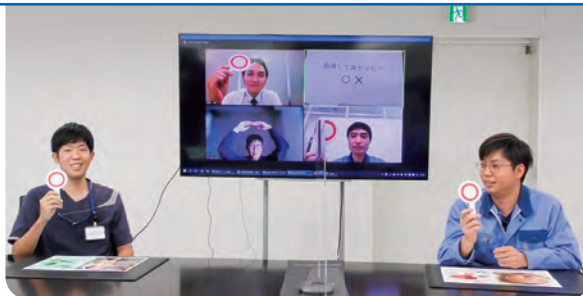
また昨今、就活生や転職予定者は、育休取得率を重視する傾向が強くなっています。当社を選ぶ人を少しでも増やしたい。社員の帰属意識を高めたい。だからこそ「男性育休が当たり前の職場」を実現することが、JMSグループ全体の魅力につながると考えています。

育休取得者による座談会を開催

10月20日、当社として初の試みとなる「育休を取得した男性社員による座談会」を開催しました。座談会には、男性社員5名(開発職2名、営業職1名、技術職2名)が参加。育休を取得しようと思ったきっかけや周囲の反応、休暇中のエピソードなどを語り合いました。

取得のきっかけは、「上司や先輩からの勧め」や「実家が遠方のため里帰り出産が難しかった」「妻からの相談」などさまざま。第2子の出産と第1子の夏休み期間が重なったことで取得を考え始めたというケースもありました。

5名の意見で共通していたのは、取得後の感想。全員が「取得して良かった」と述べ、「育児や家事の大変さを体感したことで、妻との協力関係が深まり、互いを思いやる気持ちがより強くなった」「まとめて休暇が取れたので、家族と一緒に過

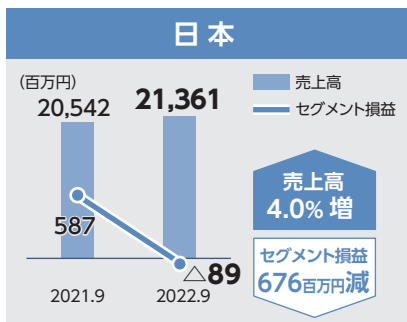


ごせる時間が増えた」「子どもの成長をすぐそばで感じる喜びを実感できた」などの声がありました。

今後の取得率向上への取り組みについては「経済的不安を解消する制度の充実を」といった問題提起も。「悩まずに、まずは周囲や人事部に相談することが大切」「自分たち経験者が体験談を話し、取得しやすい雰囲気醸成につなげたい」などの意見が出ました。

■ 所在地別

(注)セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。

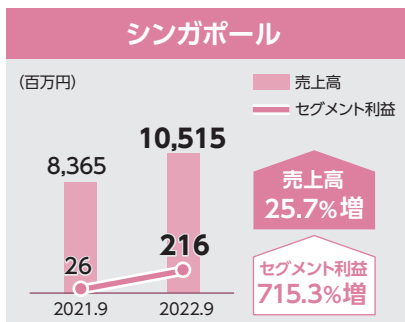


売上高 213億61百万円

薬剤調製・投与クローズドシステムが堅調に推移、急性血液浄化事業に係る販売が中国向けを含めて増加し、増収となりました。

セグメント利益 △89百万円

原材料費や電力費の高騰影響に加え、円安による外貨建て仕入取引の円貨換算額や販売活動の段階的な増加により減益となりました。



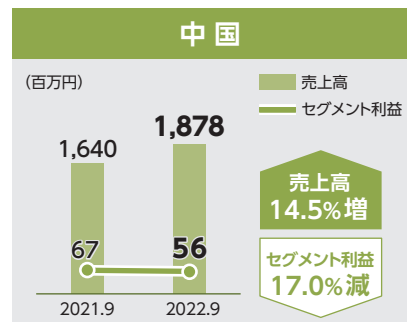
売上高 105億15百万円

成分献血用回路の販売が北米において回復をみせたことに加え、血液バッグも台湾・パキスタン・インドネシア向けを中心に売上を伸ばしました。

セグメント利益 2億16百万円

原材料費や電力費、海上運賃の高騰影響があったものの、増収効果と為替差益の計上により増益となりました。

*シンガポールは、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。

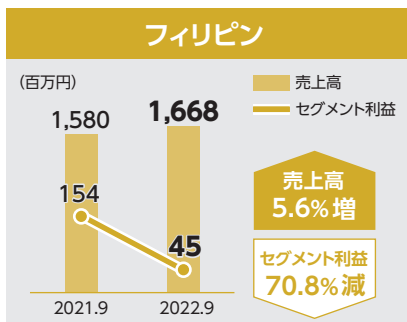


売上高 18億78百万円

AVF針や急性血液浄化回路の販売が堅調に推移したことに加え、関係会社向け材料供給も増加したことにより増収となりました。

セグメント利益 56百万円

原材料費の高騰に加え、労務費などの増加もあり減益となりました。

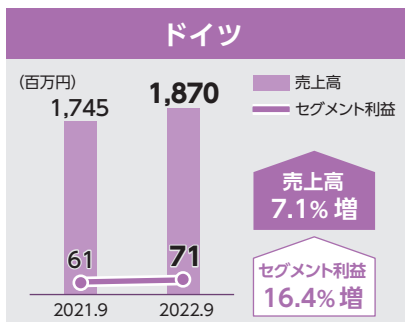


売上高 16億68百万円

欧州向けAVF針や日本向け輸液セットの販売が減少したものの、アジア向け血液バッグの増加と、円安による円貨換算額が増えたため増収となりました。

セグメント利益 45百万円

原材料費や電力費の高騰により減益となりました。

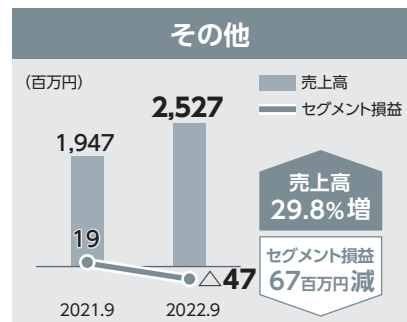


売上高 18億70百万円

透析チェアや透析キットが増加し、増収となりました。

セグメント利益 71百万円

海上運賃の増加を増収効果で吸収し増益となりました。



売上高 25億27百万円

*その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

セグメント利益 △47百万円

■ システム別売上高

輸液・栄養領域

売上高 **118億27**百万円

(百万円)

11,670 11,827

1.3%増

2021.9 2022.9

薬剤調製・投与クローズドシステムが堅調に推移したものの、医療用手袋や栄養セットの減少により微増となりました。

透析領域

売上高 **93億45**百万円

(百万円)

8,706 9,345

7.3%増

2021.9 2022.9

北米向けをはじめAVF針の販売が好調に推移したほか、欧州で透析チェアや透析キットが増加しました。

外科治療領域

売上高 **27億80**百万円

(百万円)

2,473 2,780

12.4%増

2021.9 2022.9

人工心肺用回路が増加したほか、日本及び中国で急性血液浄化事業に係る販売が増加しました。

血液・細胞領域

売上高 **52億68**百万円

(百万円)

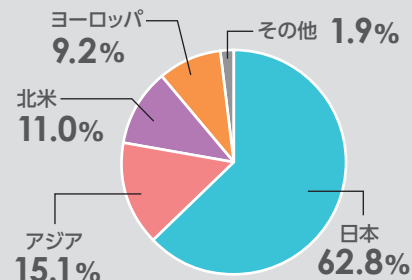
4,753 5,268

10.8%増

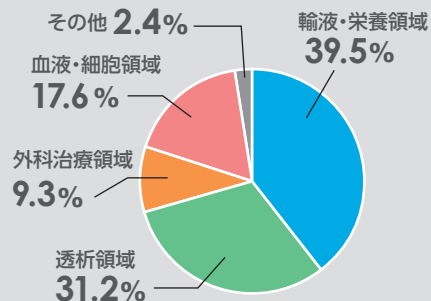
2021.9 2022.9

海外需要に回復の兆しがみられ、血液バッグが増加しました。

■ 地域別売上高構成比



■ システム別売上高構成比



輸液・栄養領域

輸液セット、注射針、シリンジ、薬剤調製・投与クローズドシステム、経腸栄養関連用品、摂食嚥下関連用品、輸液ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

透析領域

血液透析装置、ダイヤライザ、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

外科治療領域

膜型人工肺、人工肺装置、人工心肺用回路、血管造影用カテーテル、急性血液浄化関連用品、他

血液・細胞領域

血液バッグ、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、再生医療関連製品、他

財務諸表《連結》

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 2022年3月31日現在	当第2四半期 2022年9月30日現在
《資産の部》		
流動資産	40,042	41,317
現金及び預金	6,605	6,196
受取手形及び売掛金	16,077	16,316
棚卸資産	16,533	17,927
その他	825	876
固定資産	31,928	33,375
有形固定資産	25,460	27,008
無形固定資産	1,035	956
投資その他の資産	5,432	5,410
資産合計	71,971	① 74,692
《負債の部》		
流動負債	22,847	19,491
固定負債	12,030	15,987
負債合計	34,878	35,479
《純資産の部》		
株主資本	35,182	34,915
その他の包括利益累計額	1,777	4,184
非支配株主持分	133	113
純資産合計	37,093	② 39,213
負債純資産合計	71,971	74,692

▶▶▶ POINT 解説

- ① 資産合計** [前連結会計年度末に比べ27億21百万円増加]
 - ・商品及び製品や有形固定資産が増加しました。
- ② 純資産** [前連結会計年度末に比べ21億20百万円増加]
 - ・為替換算調整勘定の変動により増加しました。
- ③ 売上高** [前年同四半期に比べ16億99百万円増加]
 - ・国内は、急性血液浄化事業に係る販売や、薬剤調製・投与クローズドシステムなどが堅調に推移したものの、医療用手袋や栄養セットなどが減少しました。海外は、新型コロナウイルスの影響からの回復の兆しがみられ、血液バッグやAVF針が好調に推移しました。
- ④ 営業利益** [前年同四半期に比べ6億59百万円減少]
 - ・増収効果はあるものの、原材料費や電力費、海上運賃の高騰による影響を受けたことに加え、労務費の増加などにより減益となりました。
- ⑤ 経常利益** [前年同四半期に比べ6億27百万円減少]
 - ・為替差益があるものの、営業利益の減少により減益となりました。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2021年4月1日～ 2021年9月30日)	当第2四半期 (2022年4月1日～ 2022年9月30日)
売上高	28,275	③ 29,975
売上原価	21,154	23,132
売上総利益	7,121	6,842
販売費及び一般管理費	6,506	6,887
営業利益(△は損失)	614	④ △44
営業外収益	211	231
営業外費用	142	130
経常利益	683	⑤ 56
特別利益	2	63
特別損失	31	15
税金等調整前四半期純利益	654	104
法人税等	163	193
四半期純利益(△は損失)	491	△88
非支配株主に帰属する四半期純利益(△は損失)	△6	△20
親会社株主に帰属する四半期純利益(△は損失)	497	△68

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2021年4月1日～ 2021年9月30日)	当第2四半期 (2022年4月1日～ 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,477	⑥ 233
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,706	⑦ △2,095
財務活動によるキャッシュ・フロー	961	⑧ 1,016
現金及び現金同等物に係る換算差額	59	304
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	791	△540
現金及び現金同等物の期首残高	6,222	6,810
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,014	6,270

▶▶▶ POINT 解説

- ⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー**
 - ・[前年同四半期に比べ12億43百万円の収入減少]
 - ・売上債権の変動によるものです。
- ⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー**
 - ・[前年同四半期に比べ3億89百万円の支出増加]
 - ・有形固定資産の取得による支出によるものです。
- ⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー**
 - ・[前年同四半期に比べ55百万円の収入増加]
 - ・借入金の収支差額によるものです。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

会社情報

◎コーポレートデータ

(2022年9月30日現在)

設立	1965年(昭和40年)6月12日
資本金	7,411,014,445円
上場金融商品取引所	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従業員数	1,644人(グループ総数 5,709人)

◎役員

(2022年9月30日現在)

取締役	代表取締役社長	奥 窪 宏 章
	専務取締役	栗 根 康 浩
	常務取締役	桂 龍 司
	取締役	佐 藤 雅 文
	取締役	柳 田 正 吾
	社外取締役	池 村 和 朗
	社外取締役	石 坂 昌 三
監査役	常勤監査役	近 藤 良 夫
	社外監査役	水 戸 晃
	社外監査役	佐 上 芳 春

国内ネットワーク

株式会社ジェイ・エム・エス

- 【本 社】 広島本社／東京本社
- 【支社・営業所】 東日本支社／中日本支社／西日本支社、営業所25カ所
- 【工 場】 三次工場／出雲工場／千代田工場
- 【子 会 社】 ジェイ・エム・エス・サービス株式会社《医療機器の修理等》
- 【関連会社】 株式会社ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》

海外ネットワーク

- 【子 会 社】 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE.LTD. 《製造・販売》
- 大連ジェイ・エム・エス医療器具有限公司《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
- パイオニック・メディツインテックGmbH《販売》
- PT. ジェイ・エム・エス・パタム《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド CO.,LTD.《販売》

◎株式等の状況

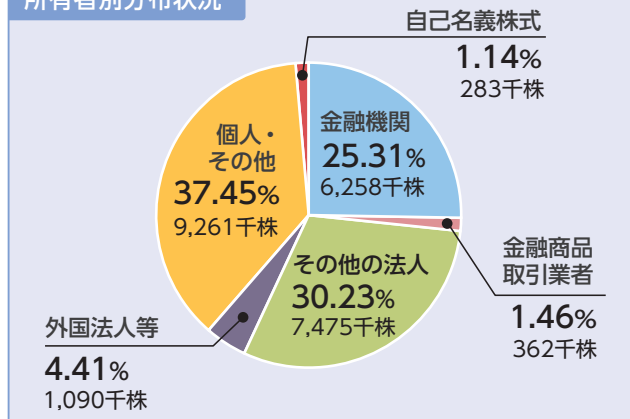
(2022年9月30日現在)

- ◇発行可能株式総数 …………… 65,000,000株
- ◇発行済株式総数 …………… 24,733,466株
(自己株式283,950株を含む)
- ◇株主数 …………… 9,021名
- ◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,473	10.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,167	8.86
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.77
土谷 佐枝子	1,008	4.12
社会福祉法人千寿会	1,000	4.09
株式会社広島銀行	895	3.66
第一生命保険株式会社	861	3.52
JMS共栄会	578	2.36
大下産業株式会社	571	2.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	492	2.01

(注)持株比率は、自己株式(283,950株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株主メモ 証券コード：7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場

公告の方法 電子公告とする。
(<https://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <https://www.jms.cc> JMS 検索 ◀



株式会社 ジェイ・エム・エス

広島本社 〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館11F
TEL 03-6372-9120 FAX 03-6372-9121

【表紙デザイン】

テーマ「暮らしの中のぬくもり」



大きなハートを抱く男性と小さな子どもを育む家庭をモチーフに人々の暮らしの中のぬくもりを願い、安心できる暮らしにつながる製品を届け続けるようとするJMSをイメージするとともに、男性育休取得率100%を目指す企業姿勢も表現しました。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。